

高退協ニュース

高知高退協
事務局
2007.5.15

No. 146

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
TEL 088-1822-1682
TEL 088-1822-1682
郵便振替口座 0165012111893

憲法記念日

「県民のつどい」に

626人が参加

日本国憲法施行60年を迎えた憲法記念日の3日、高知憲法会議が主催し、こうち九条の会が協賛した「輝け日本国憲法！憲法施行60周年県民のつどい」が県民文化ホール・グリーンで開かれました。

安倍首相が任期中の憲法改定を施政方針に掲げ、連休明けにも「国民投票法案」の強行採決が予想される緊迫した情勢のもとで、昨年の倍以上の626人が会場を埋め尽くしました。

元全教委員長、全労連議長で全国革新連代表世話人三上満さんが「世界と未来からの預かりもの―憲法」と題して講演しました。

「九条は憲法を中心をなすハート。戦争をしない国ということを決めただけではない。世界から一切の戦争をなくす先頭に日本が立つことを世界の人々に示したものだ」と指摘。憲法改定を推進する安倍首相のゆがんだ

定期総会開く

会長に三谷隆彦さん選出

大型連休初日の4月28日、高知ホールで、07年度定期総会が40余名の参加で開かれました。

会長挨拶、高教組委員長、四プロからのメッセージの後、第1号議案が提案され、教育基本法改悪阻止の取り組みの弱さ、議案の補足など意見が活発に出され予算を含む運動方針が採択されました。

だ憲法観を批判して、戦争をする国を目的とする改定に断固として反対し、自由民権発祥の地からたたかいのうねりをと訴えました。

室戸市佐喜浜の伝統芸能「佐喜浜にわか」の人たちが改憲問題で風刺寸劇を披露、参加者を笑いの渦に包みました。

フロアからは3名が発言、日本共産党の春名なおあき氏は「国民投票法案」をめぐる緊迫した国会情勢を訴えました。

新聞報道によると自民党は、連休明けに国民投票法案を強行7月の参議選のあと8〜9月に臨時国会を召集し、憲法審査会を設置、平成23年夏憲法改定を發議、秋、国民投票実施との改憲スケジュールを党内に提示しているとのこと。

職場や地域のいたるところに九条の会をつくり、さらに運動を大きく強めることが求められています。 (国松 勝)

退任挨拶

事務局に入り一〇年になりました。新風を吹き込むべく、退任します。高退協が、益々元気になります様、会員の皆さまのご協力賜ります様、よろしくお願ひします。また、山や、望を全でお会いしましょう。皆様の、ご健康お祈り致します。 和田 明

老声草

最近の議員の姿勢に思ふこと

最近の県議会は政策にはなく、「知事に賛成か、反対か」の論議のように感じるものが多くなりました。困難な時代です。一度、質問型をやめて、産業界・分野別に「二十一世紀の高知県をどうするか」、県民に展望を示す討論をしてはどうでしょうか。

議員の政務調査費。領収書公開も大事ですが、金額（二十八万円/月額）も多過ぎます。本当に五千円の食事です。食事代くらい自分で払ったらどうですか。議会での質問を見ていると毎月二十八万円もかけて県政や地域のことを研究しているようには思えないことがあります。

先の県議会、「橋本知事は東京都知事選に出てくれといわれなかったか」など、最低レベルの質問です。この人も当選しました。「さびきつた機械」発言の高知市議員も当選。「政治のレベルは県民のレベル」とやはり思います。

一般公務員は、給与の中から毎月相当額を費やして本も買い、調査研究もして世の中がよくなるよう努力しています。「私に毎月二十八万円の研究費があったら、皆さんに負けないくらい、ずいぶんたくさんの方ができていたでしょう」と議員先生に手紙を送りました。

議会への交通費も実費支給に。県職員・教職員の場合、公共交通機関は実費で、自家用車使用は一キロ当たり二十九円だと聞きました。鷹匠町から歩いていても1日当たり五千円？こんな人は議員の他にはおりません。議員の「選挙一人区」は絶対にやめるべきです。議員の数はむしろ多いほうがよい。最低3〜4人区で、住民の多様な選択が保証されるべきです。その分



議員が特権的地位を得てはならないことは、労働者の政府でなくても歴史を貫いて実現されるべきだと思えます。人民の友である議員は、是非「パブリック・ミューン」を読んで欲しい。(宮川 敏彦)

会長挨拶

三つの活動分野

二〇〇七年度総会で私どもが役員に選出されました。会員の皆様の御協力宜しくお願ひします。私は定年退職と同時に常任委員になり七年が過ぎました。高退協の活動には三つの分野があると考えます。

第一は社会的活動です。地球温暖化防止、核兵器廃絶、平和の維持など地球的規模および憲法改正など国内問題があります。安倍内閣は憲法改正を提案して国民一人一人に判断を求めてきます。提案に賛否いずれにせよ憲法を勉強しなければなりません。私は現憲法を守るべきであると考えます。

第二は高齢者の生活の安定です。私の年金は退職時より年々減額になりました。その上に介護保険料の支払い、増税など負担が増えています。退職者は夫婦二人暮らし、または一人暮らしが多いようです。病气や老老介護が不安です。財産の管理が困難になると成年後見人も考えなければなりません。

第三は親睦です。高退協では温泉昼食会、一泊旅行、望年会などしています。初歩き、登山、テニス、スキーなどは運動と親睦を兼ねています。高退協名簿を見て、電話をかけてはどうでしょうか。「元氣かえ、わしゃ腰ののうが悪うてのう」「私は不眠で困ちゆう」などから始まり話題は多いでしょう。皆様が高退協の活動に智恵と力を提供して下さいますよう宜しくお願いします。

会長 三谷隆彦



活動日誌

2007年

【3月】

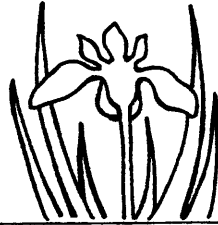
- 14日 事務局会
- 20日 「国民投票法案を許すな」高知県集会

【4月】

- 10日 「国民投票法案阻止」昼休み集会
- 12日 総会議案発送・臨時事務局会
- 28日 総会・退職者を励ます会
- 29日 メーカープラカード準備

【5月】

- 1日 第78回メーカー
- 3日 憲法施行60周年県民のつどい
- 15日 第1回事務局会



訃報

山崎博幸さんが3月15日に、西村晋さんが3月20日に、お亡くなりになりました。慎んで冥福をお祈りします。

今、高教組は

二〇〇七年四月 思うこと

倉橋楠雄

若葉を渡る風がさわやかな季節となった。学校では新入生を迎え、また新しい営みが始まった。生徒、教職員それぞれに、教室には新鮮な空気が漂っている。これまでに何ら変わることもない風景だ。しかし、ふと考えた。査定昇給の導入を含む「新しい人事評価制度」が実施されるとどういうことになるのか。普通、一年生は入試の成績を元にクラスが振り分けられる。しかし、成績だけでは見られなく、微妙な影響を与え、クラスアップの成果を上げることになった。Bクラスはなかなか指導する教師・スタッフの力量もあるかもしれない。Aクラスの担任の査定は、偶々の要素が絡み合っている。Bクラスの担任の査定は、校長も頭が痛いことだろう。そして、同じ教員の仕事に、誰からも見ても適正な評価などできるのか。多少の差は、師指の指導も、自立した学習に向かおう。生徒も、自立した学習に向かう場合もある。指導したとき、細かい熱心な指導は、生徒の成長を促す。しかし、熱心な指導は、生徒の成長を促す。しかし、熱心な指導は、生徒の成長を促す。

「評価」と「数値目標」という言葉が職場でよく聞かれるようになった。二つは切っても切れない関係にあるのだ。C高校では、旧年度内に分掌や学年会を開いて新しい年度の教員目標を設定して、PTAとこの管理職の愚挙に、陰で多くの教員が冷笑しながら、油の切れた歯車のように、軋みながら学校の動きを見ているようだ。個人の妄想だが、あの無謀な競争に突進しては、いつか学校は、こんな感じではなくなる。未来の主人権者たる子どもたちが、豊かな人生を送るために、学ばなければならない。

＜老眼鏡＞

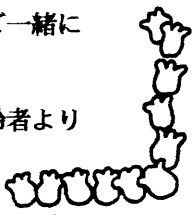
読んでみませんか

本日市議選の投票から帰って「赤旗」に眼を通しました。日曜日ですので「読書」欄が掲載されています。いつも参考にはしていますが読んでみたい図書に出会うことは少ないようです。今回はどうゆう風の吹き廻せか多くの本に興味を惹かれました。ちょうど昨日歴史小説「風は山河より」(宮城谷昌光著)を読了したところでしたのですべての書評を検討してみました。その結果読んでみたいものとして次の5冊が浮かび上がりました。

- 1. 「教に強くなる」 (岩波新書)
- 2. 「ヒトはどのようにしてつくられたか」 (山極寿一編)
- 3. 「報道されなかったイラク戦争」 (西谷文和著)
- 4. 「ダーウィン」 (R・ステファオフ著)
- 5. 「大江戸ひっくり返史」 (阿井渉介著)

いくつかを購読しようと思っています。ご一緒に読んでみませんか。

4/22 一後期高齢者より





いよいよK2へ
念願の世界第二の高峰ケ
ーツ―拝謁が実現しそうである。
この高峰はカシミールのカラ
コルムに聳えているが、とに
かくものすごい。もの本に
よると、この山は富士山の二
十倍、マッターホルンの四十
一倍だそう。標高は八六一
一米で、高さは上記の二山の
二倍強であるから、その山体
がいかに大きいか想像を絶す
る。略図を書いて計算してみ
たが、答は出てこない。とに
かく凄じい巨峰で、その頂きに
達したものは数少ない。名前
のK2は、往時にイギリス陸
軍が測量した時の呼称で、カ
ラコルム2号がその謂れ。現
地名はチヨゴリ(大きな山)

であるが、いみじくも世界第
二の高峰であったので、その
ままだま残ったようである。
なお、近くにチヨゴリザ(花
嫁の山)と言う名峰がある。
山名はできるだけ現地名を残
すべきだと思うが、個人名が

秦泉寺残月日記
坪井 幹之

acArthurと呼ばれた
ら腹が立つだろう。
さて、K2の旅の計画であ
るが、現在、旅行社が検討中
で、勿論、K2は八千米級の
ブロードピーク、ガッシャー
ブルムと合わせて遊覧飛行で
対面、魔の山ナンガ・パルバ
ットと名峰カラボシは半日程
度のトレッキングで眺望とい
うことになるようである。
最近の情報によれば、イン
ド軍がなんと海拔六〇〇〇米
の係争中の地点に陣地を構え
たそう。しかし日本の女性
登山家がK2に初登頂したと
いう情報もある。核保有国印
パ間の平和を請願う次第で
ある。「猪突猛進」の気概に
ついては次号で述べる。

傘さしメーデー

メーデー集会は小雨降る高知
中央公園いっぱい参加した。集
会後の行進も両側の拍手に迎え
られ帯屋町を西へ通過し、県庁
前から電車通りを東へ歩き、元
の公園へ戻った。

集会の舞台で「メーデーはア
メリカで八時間労働を求めて
始まった」との演説があった。
アメリカで八時間労働を要求し
ストライキで実現させたのは今
から百二十一年昔、明治十九年
であった。今の日本は形の上で
は八時間労働制であるが、実際
は教員も銀行員も毎日数時間残
業している。しかも手当無しで
ある。労使関係はアメリカが進
んでいるが、日本は約四〇〇年
昔、刀狩をして農民から武器を
取り上げた。アメリカには現在
も一億丁の銃が銃満している。
治安が悪く、今も大学の中まで
西部劇が続いている。西部だけ
ではものたりないのか太平洋を
渡り、インド洋を越えイラクま
で乗り込んで暴れている。
集会が終わり行進に移る頃には
雨が止んだ。しかし高退協は
黄、緑など派手な傘を差して歩
いた。傘には林応子先生が綺麗
な文字で次のように書いてあつ
た。

「介護・国保負担増おしつけ反
対」「憲法改悪反対・九条を守
れ」「人間らしく働けるルール
の確立を」

長い行進に声援をおくる両側
の人々は空を見上げて雨が降っ
ていないことを確認して、私た
ちの顔をのぞきこみ、再び目を
上げて傘の文字を読み、「まっ
こと そうじゃ」とうなずいて
いた。



三谷隆彦

川柳

西国川柳平和の旅 第一回
小澤 幸泉

- やすらげく青岸渡寺に (第一番)
- 那智の滝 (第一番)
- 戦首(せんもう)が叫ぶ (第六番)
- こころの壺坂寺 (第六番)
- 戦さ火の鎮まれ (第十二番)
- シャロム正法寺 (第十二番)
- 反核をつづる (第十四番)
- 疎水の園城寺 (第十四番)
- 愛し子のいのち (第二十四番)
- 支える中山寺 (第二十四番)
- 岸壁の母を (第二十九番)
- 忘れぬ松尾寺 (第二十九番)

俳句

4月21日(土)
土佐市宇佐36番札所青龍寺
一行に御利益ありし新樹晴
大輪の牡丹その名はエリザベス

吉本伸秋
逃げ水や二体つつ在す石仏
河骨の座をふくらます沼の風

中内英明
天蓋は懸り藤なり野の仏
糸垂れて浦島草の咲く構へ

中内みち代
鐘樓門落る御衣黄花の風
藤懸かりお遍路日和得し札所

小笠原さちを
水馬水子地蔵の水に生れ
づかつかと来て散り牡丹剪られ
たる

相撲ミニ知識 (七十六)

相撲協会八十年を振り返る
(評論 解説を避け、その時々
の話題を掲げて八十年を回
顧する)
一、昭和二十年まで
大正十四年

○七月、東京・大阪大角力協
会合同を決め、九月、財団法
人の認可を文部省に申請 十
二月二十八日「財団法人大日
本相撲協会」認可。

大正十五年

○天皇盃、大正十四年、摂政
宮(後の昭和天皇)誕生日に
東宮御所で台覧相撲が行われ
その時のご下賜金で大銀盃を
作り、大正十五年春場所から
優勝者の名を刻し、表彰して
いる。第一回は横綱常ノ花
十一戦全勝。
○本県出身玉錦、春場所新入
幕。

昭和二年

○関西本場所(二場所)を開
催し、年四場所になる。(昭和
二年から七年で終る)

昭和三年

○ラジオの実況放送開始。(J
○AK 東京中央放送局)
○仕切り線を設定、仕切り時
間も制限を設ける。仕切り線
のない頃は、頭を付け合う仕
切りもあった。

昭和四年

○玉錦が頭角を現し、関脇で
初優勝。

昭和五年

○玉錦 大関となる。

昭和七年

○春秋園事件
力士の待遇改善や諸制度改革
を求めて多くの力士が東京大
井の春秋園にたてこもって協
会に要求書を提出。(事件のそ
の後のについては別途述べる)
脱退力士も多く出たので一月
の興行は不可能となり、二月
二十二日から八日間の興行。
優勝は関脇清水川、八戦全勝。

昭和八年

○双葉山新入幕
二月場所力士が足りなくな
り十両六枚目から前頭四枚目
に上がった。

昭和八年

○玉錦三十二代横綱となる。

昭和八十年

○玉錦四歳、十年春、夏、十
一年春と三連覇。通算九回優
勝。(つづく)

高退協総会に参加して

四月二十八日、本年度の総会が高知城ホールで開かれた。日頃は高退協主催の行事へあまり参加をようしてないが定期総会と望年会へは参加するよう努めている。

総会、望年会、旅行等の参加について事務局から電話がかかってくる。人集めのためにご苦労がしのばれる。

今年の総会開会時は三十八名の参加だったようであるが後半後の座席を見ると四十名は越えていたように思えた。現在の会員は四百二十四名との事。約一割の参加率なら、まあまあというところだろう。

日頃、逢つこともない人達に久しぶりに逢えて「元氣かね」と声を掛け合えるのもうれしいことである。今年は逢いたい人三人に電話をしたところ、二人は参加すること、久しぶりにお茶でも飲みながらおしゃべりをしようと言つことになった。もう一人は総会は魅力がないから、日を改めて逢おうということになった。

総会は魅力がないと思う人、久しぶりに旧交を温めたいと思う人、高齢のため外出もままならない人、家庭的な事情を抱えている者もいると思う。

最近、私の恩師でもあり、元同僚として勤めた高齢の先生二人にお逢いして高退協の話をしたところ、「せめて会費を払うだけでも・・・」と言われた。この先生達とは勤評反対、安保反対を共に闘い処分された仲間でもある。この当時の人達には絆とも言える結びつきがある。



ように思える。

今年退職した二人の女性からは困難な職場に見切りをつけて数年を残して退職したと報告があった。

若い人達や高齢者もそれぞれに事情を抱えている。この仲間達が共に支え励ましてゆける高退協である為の話し合いの場をぜひ持つてもらいたい。

野島幸代

私の健康法

久万田 登志子



健康法といつても特に何もしていないが、山の会に入れてもらったのが平成二年九月、次郎笈から剣山に登ったのが最初だった。以来、月一回の山行や県外・国外へと連れて行つてもらい、とうとう十七年近くになつてしまつた。最近では心身の衰えを感じ、もう無理はできないと思つている。

考えてみれば、退職後友人に誘われて週一回、または二回体操に行つた。名前はいろいろ変わったが、今ではフィットネス、リズム体操、音楽に合わせて身体を動かしたりストレッチをしたり、それがずっと続いている。何をしてもなかなかその気にならない腰の重い私だが、いったんやり始めるとずっと続ける。何となく続いているのだ。体操・大正琴・山どれもかなり長く続いている。

その間にできた友達とのおつき合い、お稽古の後の喫茶でのひとときをおしゃべりに花を咲かせる。また四季折々、楽しい旅行にも出かける。週一回の娘とのデート、これも私になくてはならない楽しみであり活力の源となつている。山の会の飲み会も楽しい。気心のわかつた皆さんとわいわい賑やかな雰囲気。だから山もやめられない。ほちほちとゆつくり登れる山を続けたいと思つている。山の皆さんよろしくお願ひします。

強いて言えばこのような生活が私の健康法でしょうか？これからもまだまだしたいことがたくさんあるような気持ちでいます。

旅

近現代史を現地に学ぶ 韓国旅行に参加して

三月三日から二十七日まで、自由民権記念館主催の「安重根と平和を訪ねる韓国への旅」に、一行二四名に加わる。近現代史を現地に学ぼうというのがテーマで、「草の家」の前事務局長の金英丸さんと公文豪さんの解説付きのツアーでした。

二三日午後三時松山発のアシアナ機でソウルのインチョン空港着。ナトリウム電光に輝くソウルの街をバスの窓から眺めつつ予定のホテルへ。

二四日ソウル市内見物で曹溪寺、景福宮、国立民俗博物館を見学。午後は南山公園の「安重根義士記念館」へ。安重根義士（一九〇九年一〇月、ハルビン駅頭で伊藤博文初代朝鮮総監を射殺し、翌年三月処刑される）の生涯や独立運動関係の展示物を解説付きで見学。次に南大門市場で買物。

二五日 バスで北の非武装地帯へ。自由の橋（捕虜交換所）、第三トンネル、統一展望台、トラン駅（南からの最終駅でなく北への始発駅）の看板のかかる駅）を見学。ピョンヤン、北京、パリとつなぐ線路が希望され建設中の場所を見て朝鮮人の思いに胸を打たれた。次に、南の広州の「ナムの家」に向かう。第二次大戦中、日本軍の慰安婦とされた老女の住む家で慰安婦の部屋や、彼女たちの手になる絵や書、手芸品を見学。老女と会つて会話し、握手をした。

二六日 この日が安重根義士が処刑された日、一九一〇年三月二六日の九七回目の日で、九七周年追悼式」の行われる「安重根記念館を再び訪問、式典に参加し一同献花する。

午後は西大門刑務所へ、日本帝国主義が朝鮮併合したのに対し、朝鮮の独立をめざして各地

で抵抗運動をしたため多くの朝鮮人が投獄され拷問されるシーンを再現してある刑務所内を見学、次に水原にある「朝鮮民俗村」を見学、一九〇の農村生活を学ぶ。

二七日 タプゴル公園へ。ここは一九一九年三月一日に朝鮮各地で起こった「三一独立運動」発祥の地。独立記念塔や万歳運動の弾圧場面を銅版に刻んだ石碑その他を見学。

再びアシアナ機でインチョン空港を立ち、松山空港へ。一行は無事バスで帰高し解散した。東アジアの平和と日韓友好親善の大切さを痛感させられるツアーでした。

岡崎清恵

短歌

嘸嘸と澄む音色

榊原忠彦

嘸嘸とトランペットの澄む音色、曲も多彩に堅ニコンサート

(四月二日RKCホールで、田宮聖二、フラス・アンサンブルコンサート)

木戸昭平君が時に語りし「眠狂四郎」テレビ娛しむ老いびとの夜は

花散らしの雨後は葉桜、柿若葉天神山はつつじも赤し

鎮魂

山本晶子

出世捨て被害者側に身を置きし字井純さんも逝きにけるかな

明晰かつ人間的なる天木直人大使辞任の経緯読みゆく

早春

叶岡淑子

ああやはり悪の枢軸はアメリカだ天木氏の著書読みつつおもふ

友と来て早春の野に露摘めばほのかな香り胸にしみ入る

春浅く老い深まれる誕生日ようやくに記す「リビング・ウィル」

ピンク色に斜面彩る芝桜この街に棲み春いくたびか